

学校だより

ヒューストン日本語補習校

Japanese Educational Institute of Houston

12651 Briar Forest Drive, Suite 105, Houston, Texas 77077

Tel. 281-531-6743 / Fax. 281-531-6795 (事務局 火~金曜日)

Tel. / Fax. 713-973-0659 (職員室 土曜日のみ)

E-mail: jlssh@jeihouston.org Home Page: www.jeihouston.org

山崎直子宇宙飛行士さんの 「宇宙の授業」



5月末に予定されていましたが、新型インフルエンザのため延期されていた山崎宇宙飛行士さんによる「宇宙の授業」が9月19日(土)、中学部と高等部小論選択生を対象に開催されました。当日は、9時過ぎには JAXA の三宅正純所長さんや担当の松尾さん、そして、TV 撮影の方々が来校されました。まもなく、山崎宇宙飛行士さんも来校され、休憩する間もなく、早速パソコン設定など、授業の準備に取りかかりました。

授業では、幼少時代から大学時代にかけて、自らの夢や希望の実現に挑戦する過程の中で、兄様の影響があったことや、多くの方々との出会いの場面も話されました。宇宙飛行士を目指した時の動機や宇宙飛行士になるための受験資格、合格してから後の訓練内容についても丁寧に分かりやすく説明して下さいました。

最後に「地球も宇宙の一つ、地球をよくするために宇宙にかかわっていく。色々なことに興味を持ってほしい」と結ばれました。質問の



時間では、たくさん質問が用意されていたのですが、そのいくつかについて答えていただきました。その質問の中では、実際に宇宙から帰還された実体験についてのものもあ

ったことから、この授業を参観されていた野口宇宙飛行士さんも飛び入り



でお答えいただく場面もありました。用意されていた質問は後日回答をいただくことになっています。今回の授業を全面的に応援して下さ

った JAXA の皆さま、山崎宇宙飛行士さん、飛び入り参加の野口宇宙飛行士さん、ありがとうございました。

「宇宙の授業」を受けて……生徒感想文

授業を受けた後の休憩時間内で書き上げた感想文を紹介します。

宇宙授業

加地 紫苑(中1A 宗吉学級)

私は、この授業の始めから終わりまで興味津々で聞いていた。日本に住んでいた頃は、宇宙飛行士は手の届かない所にいる人だと半ばあきらめていたが、この前の若田宇宙飛行士の激励会に続き、とても新鮮で素晴らしい経験だった。

山崎宇宙飛行士に地球に戻った時の感覚について質問した。私たちの誰もが知りたい普通のことを聞いてしまうことになるかと少し迷った。だが、この機会を逃してはいけないと考え、勇気を出して手を挙げた。そして、山崎宇宙飛行士も野口宇宙飛行士もていねいに、分かりやすく実体験を語りながら答えてくれた。私は、改めて彼らの宇宙飛行士と日本人としての誇りを痛感した。チャンスがあれば、私も宇宙に関係のある職についてみたいと思った。

宇宙授業

川西 諒一(中1A 宗吉学級)

山崎直子宇宙飛行士が、カフェテリアで宇宙授業をしてくれた。

その中で一番興味があつたのは、スペースシャトルの速度である。秒速九キロ、一秒間に九キロと言われても、あまり実感できない速度である。だから、少し日本列島について考えてみながら秒速九キロについて考えてみた。日本列島は三千キロだから、三千割る九で、約三百三十三になる。つまり、スペースシャトルの速度でいけば、三百三十三秒、又は五分強だ。

ヒューストンから東京まで直線距離約一万五千キロ。これをふまえて、平均速度八百五十キロの飛行機で十二から十三時間かかるところをスペースシャトルで約千六百秒強。つまり、スペースシャトルの速度で移動すれば、約二十六分三十秒で移動することができる。

このように、普段は考える事のなかった事について考えさせてくれた宇宙授業をしてくれた山崎直子宇宙飛行士、ありがとうございました。

(次号にも感想文を掲載する予定です)

高等部選択科目「小論」から②

日本の教育とアメリカの教育

三輪岳誠 (高等部 2年 河島教室)

課題文では、日本と米国、各々の高校と大学における教育面での重点の置き方と、それに伴う思考の相違について言及している。そして、文章中には「無気力な日本の学生」と「知識欲旺盛なアメリカの学生」という二つの対称的な学生の様子が比較されている。さて、このような差異が生じてしまった日本の教育の根本的原因は何だろうか。そして、これを克服するべく必要な要素は何だろうか。

私の考える主な原因は二つある。まず一つ目は「授業形態」、二つ目は「授業の受け方」である。まず一つ目の「授業形態」。アメリカは、どの教科も「流れ」に重きを置く事が多い様に感じられる。例としては、プロジェクトがある。決められた範囲内であれば、自分の関心事について調べることが可能である。歴史の授業を例にとった場合も同様に、時代ごとに流れを掴み、それに加えて単語を覚えさせる。それに対し、日本の歴史の授業は、単語とその説明を機械的に組み合わせ、単に「暗記」するだけである。そして、二つ目の「授業の受け方」。まず、アメリカの授業は騒々しい。しかし、ただ騒々しいのではなく、授業に対する質問や発言が常に飛び交っているのである。先生自身もそれらの発言を煩わしいと思うどころか評価し、更に生徒に対し質問を出し、生徒の発言を促す。簡単に言い換えると、「対話型」又は「参加型」の授業と言えるのだろう。それに対し、日本の授業はとても静かで、皆各々のノート作りに励んでいる。あまり頻繁に授業中、質問をするような事があれば、「授業が終わった後に質問に来なさい」と言われ、先生たちは自分たちの授業が中断されたり、遅延したりするような事は尽く嫌うのである。

これら二つの視点から見ても明白だが、興味をそそる授業が米国である事は一目瞭然である。よって、日本の授業に欠落している点は、ただ知識を詰め込むのではなく、それぞれの教科の原点に戻り、それぞれ異なる楽しみや疑問を大切にする教育精神だと思う。

----- 〈お知らせとお願い〉 -----

- ①授業料の納入を10月3日(土)、10日(土)の両日をお願い致します。幼稚園部と小学部は副教材費も含めて一人1枚の小切手をお願い致します。
- ②風邪・インフルエンザが流行の兆しを見せています。その対応については、先週号でお知らせしましたので、よろしく対応してください。
- ③運動会が近づいています。リレーの練習等も開始されます。体調管理にご留意ください。夜明けが遅くなり日暮れが早くなっています。交通安全にご留意。

個人面談～保護者からの意見・質問など～

- ① 日記や読書レポートをクラスの前の壁に掲示してはいかがでしょうか。他のお子様の作品を見ることも楽しいですし、保護者もクラスの前に集まりやすいかと思います。
[校長]仰る通りだと思います。かなり沢山の教室で壁を利用するなどして、児童生徒の作品を掲示していきます。今後、更に充実するよう取り組んでみます。
- ② 高学年になると現地校との両立が大変になってくる。個人差もあるだろうがついて行けるだろうか。
[校長]基本的には、各家庭によって何(補習校・現地校・習い事等)を最も重要と位置づけるかによって異なります。補習校の教育目標や指導の重点事項などを参考にして、わが家・わが子の目標を設定されたらいかがでしょうか。私は「学びたい学校・学ばせたい学校・学んでよかった学校」の創造を目標としています。
- ③ 子どもの意見発表の機会やグループでの意見交換の場をなるべく沢山あるとうれしい。
[校長]時間の許す限り各教室で行っています。時には第6限目にこの機会を設定するなどして、保護者の参観に供することもあります。今後そのような機会が適切に開設されるよう先生方をお願いします。その際は是非ご出席ください。(以下次号に続く)

◆パトロール当番予定表10月3日◆

～よろしくをお願いします～

	学年	順位	児童生徒氏名
★AM1 リーダー	幼	2 3	橋本希楽
2	小3	1 9	藤縄晋央
3	幼	2 5	福島里桜
4		2 6	リービー ケイラ
5		2 7	前田夏成
6		2 8	大久保太陽
7	小1	1	大原希海
★PM1 リーダー	小1	2	武正 暦
2		3	村上葉月
3		4	国府島彩音
4		5	ウイリアム望
5		6	平野美愛
6		7	村田萌歌
7		8	室井康利



転出：高橋翔馬(小2 A) 上野香瑛子(小3 B)
 上野百瑛子(小6 A) 高橋彩香(中1 A)
 高橋裕太(中1 B) 上野百瑛子(中2)
 ヒューストンでの数々の思い出を胸に、帰国されても健康で元気に、学業に励まれるよう期待します。